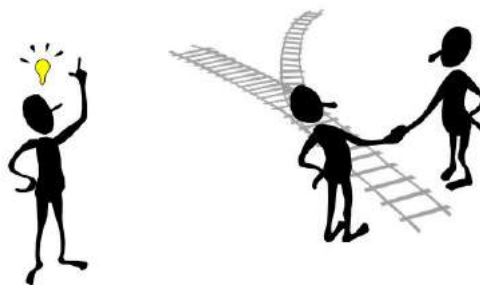




第2回
ダイバーショナルセラピー
実践発表全国大会
2019＜東京＞



2019 年 3 月 17 日（日）

主催：NPO 法人日本ダイバーショナルセラピー協会
順天堂大学国際教養学部グローバル・ヘルスプロモーション・リサーチセンター
後援：公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団

会 場
順天堂大学国際教養学部 401 教室

ダイバーショナルセラピー実践発表全国大会 2019＜東京＞

☆プログラム☆

- 11:00 開会の挨拶 田附潤一理事・事務局長
- 11:05 基調講演「WHOヘルスプロモーション～愛と夢を育む健康な社会づくりを目指して」
島内憲夫氏 順天堂大学国際教養学部副学部長・特任教授・医学博士
順天堂大学国際教養学部グローバル・ヘルスプロモーション・リサーチ
センター所長・日本ダイバーショナルセラピー協会副理事長
- 12:05 DT最新情報「DTの国際的歩みと在宅DT」 芹澤隆子理事長
- 12:30 ランチタイム

＜実践発表＞

- 13:15 プレゼンテーションの進行について
- 13:20 人生の最後に花を～ルームビジットの取り組み～ 松尾美由紀(埼玉)
- 13:35 認知症治療病棟における集団活動(DT)参加とその効果 喜井隆太郎(香川)
- 13:50 ミミちゃんがくれたもの～ドールセラピー「たあたん」活用実践報告 本間圭介(北海道)
- 14:05 従来のレクリエーションにDTの視点を取り入れてみたら～TRY！ 伊藤通江(千葉)
- 14:20 生きがいみ～つけた！～透析治療クリニックでのDTの取り組み～ 赤澤千鶴(熊本)
- 14:35 休 憩
- 14:50 アセスメントこそ最大のDT！ 吉田佑絵(千葉)
- 15:05 刺激のある施設生活を！～いくつになっても“レディー”～ 伊藤大輔・宗像澄生(神奈川)
- 15:20 勉強楽しいな～！！DTを取り入れた学習療法の取り組み 秋本真希(北海道)
- 15:35 DTと共に歩んだ14年～利用者と職員の心のより所として～ 高崎徹、田中赳(千葉)
- 15:50 休 憩
- 16:05 笑顔生れるDT活動～利用者と過ごした春夏秋冬から得たもの～小林瑞穂・相川美保(群馬)
- 16:20 “どんぐりマネー”を稼ごう！～私と孫の挑戦～ 安齊芳枝(北海道)
- 16:35 DT委員会の活動と変化～各事業所が同じ五感をテーマにプログラム～高田武代(福岡) 11
- 6:50 ルームビジットがもたらしたもの～“その人らしさを探して”～松本幸子・熊谷 由美子(東京)
- 17:05 質疑応答とフリーディスカッション
参加者投票の発表～表彰～
- 17:30 終 了

※抄録の文中では、入居者、利用者、家族等の敬称を略させていただきました。



第2回
ダイバーショナルセラピー
実践発表全国大会
2019＜東京＞

抄 録 集

人生の最期に花を ～ルームビジットの取り組み～

松尾美由紀／第 10 期 D T W／介護職員
社会福祉法人えがりて 特別養護老人ホーム吹上苑

【事例背景】

F 氏、男性、当時 77 歳。埼玉県鴻巣市生まれ。家業である農業を手伝いながら、J R の保守点検の仕事をしていた。28 歳頃に結婚、子供は 2 人。兄弟はたくさんいたが、小さい頃に亡くし、現在、姉と 2 人の妹がいる。若い頃の趣味は、運動。ソフトボールが得意だった。そして、食事。何よりも食べることが大好きだったので、施設に入居後もカップラーメンを食べるのが日課だった。パーキンソン病を患っており、筋固縮がある。普段は無表情。反応が良い時、職員の声掛けに「なんだよ」「うるせーな」「さみーよ」など言葉を発する。

看取り期に入り、好きだった食事では食事中にむせ込むことが多くなった。日に日に状態に変化がみられ、痰絡みの咳込みもみられるようになった。目の焦点が合わず、職員の声かけに対する反応も鈍くなっていた。

【目的】

季節の曲やなじみの曲を歌い、五感に良い刺激を与える。手浴やマッサージを施し、筋固縮の緩和をめざす。ルームビジットを通じて、看取り期における F 氏の心のケアを行う。

【方法】

入浴剤を使い、手浴を行う。リラックス効果のあるアロマハンドクリームを使って、ハンドマッサージを行う。季節を感じてもらうため、小道具を用意（もみじ）。小道具を使いながら「もみじ」「ふるさと」を歌う。

【成果】

この日、F 氏はしっかりと起きていた。妻と長男の妻、孫が面会に来ていた。事情を説明し、承諾を得て活動を行う。入浴剤を使用して手浴を行い、ハンドマッサージを施すと、筋固縮していた手の力が抜けていくのがわかった。最初は険しい表情をしていた F 氏が、職員の顔を見たり、時折、気持ちが良さそうな表情になっていくのが、見て感じ取れた。ハンドマッサージを行っている時に、妻が F 氏の昔話をし始めた。長男の妻と孫も会話に参加し、F 氏の若い頃の様子や仕事の話、孫との楽しかった思い出を話す。その後、季節に合わせ、小道具を用意し「もみじ」を披露する。最後に「ふるさと」を披露して終了。活動を終わると、家族から御礼の言葉をいただき、妻は F 氏との思い出を話した。また、ユニットの職員や看護師から「部屋にいい匂いが残って良いね」という言葉をいただく。

【ここが D T】

看取り期にルームビジットを開催することで、家族とともに、最期の F 氏の思い出に浸るきっかけができ、F 氏と家族の心の交流も深めることができた。また、入浴剤やアロマハンドクリームによって、F 氏だけでなく、他の入居者や職員に癒やしを与えることができた。家族や職員から高い評価をいただき、さらに開催要望の声もあがった。

当院認知症治療病棟における集団活動(D T)参加とその効果

喜井隆太郎／作業療法士

医療法人社団和風会 橋本病院

Key Ward：集団活動(DT)、運動 FIM、認知 FIM、MMSE

※FIM／Functional Independence Measure（機能的自立度評価表）

※MMSE／Mini Mental State Examination（精神状態短時間検査）

【はじめに】

当院認知症治療病棟(以下、当院)では、入院後に運動 FIM、認知 FIM、MMSE などの生活機能及び認知機能が低下する患者が存在しているが、その原因は定かではない。DT(ダイバーショナルセラピー)では、「老いるとは楽しむこと」と言われているが、そういった機能が低下すると楽しみたいという思いが起こっても自発的に行動に移すことが難しくなると考えている。

そこで、老いることを楽しむために必要な機能の基盤となりうる運動 FIM、認知 FIM、MMSE に影響を及ぼす原因を、セルフケア以外の時間の過ごし方に着目し、集団活動(以下、DT)の習慣化との関連を調査することとした。

【方法】

対象は、平成 29 年 4 月～6 月に当院に入院中の患者 30 例とし、意識障害のある患者は除外した。集団活動実施群 19 例(以下、実施群)、集団活動非実施群 11 例(以下、非実施群)の 2 群に分類し、比較項目を活動前後の運動 FIM 利得、認知 FIM 利得、MMSE 利得の 3 項目とした。活動内容は運動プログラム(風船バレー、輪投げ、体操、散歩)とし、6 人～10 人のグループで 1 日 40 分、週 2 回、3 か月間(計 26 回)実施した。介入に際しては①患者間のコミュニケーション、②回想、③家族の協力に焦点をあて関わりを持った。実施群と非実施群の 2 群間の運動 FIM 利得、認知 FIM、MMSE 利得を比較した。

【倫理的配慮】

当院倫理委員会の規定に準じ使用データは個人を特定できないよう配慮した。

【結果】

実施群と非実施群の 2 群間で運動 FIM 利得($P<0.01$)、MMSE 利得($P<0.01$)に有意差を認め、運動 FIM 利得は実施群／非実施群(平均 7 点／—4 点)、MMSE 利得は実施群／非実施群(平均 3 点／—2 点)であった。認知 FIM は有意差を認めなかった。

【考察】

今回の調査結果により、適度な運動要素のある活動に患者間のコミュニケーションや回想などを取り入れることは、生活機能や認知機能に直結する可能性が示唆された。個別活動では得難い、患者間の共感や他者への気配り、賞賛の機会が育まれたことは、セルフケア場面において能動的動作(老いることを楽しむ)の増加に寄与する可能性があると考えられる。

ミミちゃんがくれたもの ～セラピードール「たあたん」活用実践報告～

本間圭介／第 11 期 D T W／介護福祉士

有限会社おいらーく 介護付有料老人ホームせんり

【背景】

A 様 89 歳女性、要介護 4、認知症自立度Ⅲa、右片麻痺。帰宅願望が強く、息子様の夕飯やお弁当等のお世話をしなくちゃと、特に午後から落ち着かなくなってしまう。普段は他入居者様の家族にも自分から声をかけるほど、積極的にコミュニケーションをとっている。

B 様 90 歳女性、要介護 2、認知症自立度Ⅱb、脳梗塞、難聴。補聴器を装着しても聞こえていないことが多く、一人で過ごす事がほとんど。娘様が体調不良で入院、大切にしていた物を紛失といったことが重なり、不安や不信感を抱え「もうせんりにはいられない！」と険しい表情で過ごす日々が続いていた。

【目的・方法】

A 様：来訪の方や併設保育所ドリームの子どもたちを見かけると、途端に満面の笑みを見せてくれることから、セラピードール「たあたん」を用いて子どものお世話という役割を持っていたくことで、自宅ではなくせんりで自己実現を達成できることを目標とした。

B 様：下述 A 様がたあたんを避けるようにする隣で、「かわいいねえ」と微笑んでいた。息子様を亡くしているので、たあたんとの関わりは職員が意図的に避けていたが、抱っこしてもらおうとニコニコしながらあやし始め、「寝かしつけてあげようか」など話しかけており、お世話をお願いすることにした。

【結果】

A 様：遠目では「かわいいねえ！」と笑顔だが、抱っこすることは頑なに拒まれ、進展させることが出来ずに終わった。片麻痺のために抱っこをして、落としてしまうことがこわいと発言され、座っているたあたんの手足を触ることさえ怖がることもあった。現在は、ホールに集まってくる他入居者様との会話を楽しみにしており、気持ちは落ち着いていることが増えている。

B 様：ホールに出てきても、おやつを食べてすぐ戻るという生活パターンだったが、たあたんと一緒におやつ時間を過ごすことによって、ホールで過ごす時間が増え、他入居者様とのコミュニケーションの機会が増え、「ミミちゃん」と名前をつけて毎日お世話をするようになった。

【ここが D T】

これまで B 様が他入居者様と会話することはほとんどなかったが、たあたんに話しかける、あやす、笑いかけるといった共通の目的を入居者同士が共有することで仲間意識のようなものが芽生え、会話が増え、B 様を主軸に、皆で子育てをしていく環境が生まれた。そしてなにより、「また明日ね」とミミちゃんを愛しそうに寝かしつけてから寝床につく B 様は「朝、ベッドから起き上がる理由」を見出せたと言えるのではないだろうか。A 様は、直接たあたんに触れることはないが、ドールのいる和やかな雰囲気を楽しんでおられるようだ。ドールセラピーの反応の仕方にも個別性があることを改めて知った。

従来のレクリエーションにDTの視点を取り入れてみたら ～TRY・TRY・TRYの6か月間～

伊藤通江／第7期DTW／社会福祉士

【背景】

首都圏で37施設を運営し、約2000名の入居者を抱える有料老人ホーム。施設での生活を楽しく有意義に過ごすためにレクリエーションに力を入れており、多彩なレクリエーションを開催するため、専門職員を配置した部が存在していた。フラワーアレンジメント指導員の募集があり、2018年7月に応募。面接時にレクリエーション担当部長が私の経歴の中のDTに興味をもたれ、遊びリテーションの部署に配属され9月に入社した。

【目的】

DTの視点をもっていろいろなレクリエーションを実践することによりどのような効果が出るかを検証すること。環境や状態の違う入居者に対してどのようにアプローチしていくことが有効か、DTWとしてレジャー・ライフスタイル・チョイス・コミュニケーションを念頭に置きメニューを考えていく。DTの視点から組み立てられたレクリエーションが笑顔と楽しさと心地よい時間となるよう試みる。

【実施方法】

入居者が積極的にレクリエーションに参加できるように私が行ったことは、そのレクリエーションの“そもそも論”や効果をできるだけ説明し、満足感が得られる材料を用意した。

- ・自分なりのアセスメント・モニタリング
- ・ケアプランを読み込む→ケアマネージャーへの働きかけ
- ・施設のスケジュールを確認
- ・他スタッフとの調整
- ・資材の確保（楽譜・ウォークマン・スピーカー・ホワイトボード）
- ・家族やボランティアとの関わり
- ・SONASセッションの組み立て
- ・半年間で行ったDTプログラム
オクタバンド・風船・体操・音楽・タップダンス・ヨガ・ボディーパーカッション
ハンドベル・鉄琴・盆踊り・手話ダンス・ルームビジット・ポーセラーツ…
- ・実践できなかったこと
ドールセラピー・DTワゴン・フラワーアレンジメント・美術・イベント…

【ここがDT】

DTで学んだことは随所でレクリエーションの実践に役立つと実感した。枝葉は自由に伸びていく可能性を秘めており、その自由度と広がり方がDTならではの魅力だと感じた。逆にDTとしての視点を持たずにレクリエーション担当を半年間行うことは私には難しかったと思う。今回、恵まれたことにDTWとしての活動を実践する機会に恵まれたが、ぜひ同様に学んだ方々にもこの楽しさを共有してもらいたいと感じている。

生きがいみつけた 透析クリニックでのD Tの取り組み

赤澤千鶴／第5期D TW／准看護師
医療法人社団仁誠会 仁誠会クリニック光の森

【背景】

医療法人社団仁誠会は透析治療を専門とする5つのクリニックと介護福祉部門を備え、質の高いサービスを提供している。当院は入院施設がなく、週3回4～5時間の外来の透析治療を行っている。透析は生涯必要な治療で、透析導入をきっかけに趣味をあきらめ、外出の機会も減り、ライフスタイルが大きく変わる人が多い。仁誠会では10年前よりD Tを導入し、患者の治療計画を「透析プラン」から「生きがいプラン」へ変更、加えて「好きなことアセスメントシート」を仁誠会独自に作成し、その人らしい楽しさや生きがいの支援に活用している。

【目的】

好きなことアセスメントシートを活用し、好きなことや関心があることを見つけ、コミュニケーションの中から実践可能なことをみつけ、生きがいプランに組み込み、一人一人の生きがいに繋げる。

【実施方法】

事例：T氏、73歳男性、透析歴8年。「楽しみはな～んもなか」と週3回の透析日以外は自宅で過ごす毎日。好きなことアセスメントシートからコーヒーが好きなことが分かり、2016年の院内の夏祭りに、T氏を店長として珈琲店を出店してみたら、以後、T氏の生きがいに繋がった。2年後、基幹病院にて永眠される。その後、妻の希望にて同年の夏祭りに3年目の珈琲店を出店した。

【ここがD T】

①コミュニケーションのなかで、T氏と私のワクワクすることを見つけ提案する（珈琲店を出すこと）。最初はもちろん「無理だ」と断われた。その後も意識的に透析日に声をかけた。ある日、奥様と珈琲店へ行ったら嬉しそうに話された。チャンスと思った。「夏祭りはどうしますか？」と声をかけると、「してみましようか」と返事をもらった。T氏は押し入れに眠っていたコーヒーミルを出し、珈琲豆の選別、買い出し、コーヒーに添えるお菓子選び、職員への試食会…と、奥様と二人で準備する。このD Tで本人のやる気が芽生え、行動（ワクワク）へと繋がり、多くのチョイスが生まれ、社会との交流の場となった。

②T氏の生きがい支援に奥様も協力していただくことで、夫婦の絆がさらに深まり、妻のD Tともなった。妻は、T氏死亡の連絡をくださると同時に「同年の夏祭りの珈琲店出店をしたい」と希望される。D Tの取り組みはT氏家族と仁誠会との強い絆をもたらし、夏祭りにはT氏の写真を置くことで、みんなが写真に話しをかけT氏の供養となり、奥様のグリーフケアともなった。

【まとめ】

人生の楽しみ方は個々に違う。好きなことアセスメントシートは患者さんを知るツールとして有効でありコミュニケーションも深まる。私たちがワクワクすることを見つけることで、人生を楽しむことの扉が開き、共に楽しむことで信頼関係が深まると考える

アセスメントこそ最大のD T！
吉田佑絵／第13期D TW／福祉用具プランナー
フランスベッド株式会社 千葉営業所

【対象者・背景】

今回のD T対象者は、80歳のAさん女性。Aさんは長女のBさん(52歳)が9年前に脳出血による寝たきりとなり、以降一人で自宅介護をしている。Aさんの夫と次女はすでに他界している。現在長女のBさんは介護保険を利用し、訪問入浴を週に2回、福祉用具貸与のサービスを受けて生活している。Bさんは当時右脳を全摘出したため、話せなくなり、胃ろうになる予定だったが、Aさんが「病院に殺される」と自らの判断で逃げるように家に連れ帰った。退院後、Aさんが一人で面倒を見て、現在目は見えないものの、話せる・食べられる状態まで回復させた。いつもベッド上で「あははは、ご飯食べたい」と笑っているBさん。

【目的】

Aさんはケアマネージャー含め、サービス事業者に対しての不満が常に絶えず、一回の訪問で3時間ずっと不満を話し続けることもしばしば。口癖は、「介護サービスを受けて負担が軽くなるどころか、むしろ苦勞させられているわ」「人の家に上がることがどういうことか分かっていないわ」「自分たちがバイキンっていう意識はないのかしら」…などなど。

私ははじめ「不満を聞いてあげれば満足でしょう」と思っていたが、「Aさんの不満・不安な毎日」から少し気をそらすためのアプローチを実践することにした。

【実施方法】

D Tアプローチの始まりとして、Aさんの口癖に着目すると、「〇〇はこうあるべき」という考えが人一倍強いことが分かった。そこで、なぜそう思うのかAさんに質問してみると、Aさんの育ってきた環境や勤めていた会社が影響していることが分かってきた。また、特にAさんは「他人に影響したい」気持ちが人一倍強い方だということも分かってきた。それは、介護生活となり「周囲と隔絶している、繋がっていない」という不安から生まれている気持ちの裏返しなのではと推測できた。その他にもAさんの不満をただ聴くだけでなく、介護とは関係のない話題を話すようにしてみた。質問を繰り返すうちに、Aさんが社内恋愛をしていたこと、登山が好きで富士山登山で最速記録を出したこと、など様々な得意話が出てくるようになった。そのような調子で訪問を2年ほど続けた結果、3時間の話のうち、初めはずっと不満話だったが、だんだんと不満話と得意話が半分半分くらいの割合に変化してきた。

Aさんにとって何より大切なのはもちろん娘のBさんだが、同じくらい自分への意識が高いことがわかった。「Aさんのおかげで社内の評価があがりました！」といった話をしたり、最近ではAさんの写真を撮ってあげたりすることで、喜ぶことがわかった。

【ここがD T】

今までアセスメント実施後に次なるアプローチを考えていたが、実際は毎回の訪問がアセスメントで終わっている。今回のAさんとの関わりから、アセスメントすること自体がD Tとして大きな役割を発揮していることが理解できたケースとなった。

刺激のある施設生活を！ ～いくつになってもレディ～

伊藤大輔／第7期DTW／介護福祉士

宗像澄生／第13期DTW／看護師

医療法人沖縄徳洲会 介護老人保健施設リハビリケア湘南かまくら

【背景】

当施設には、伊藤の他、矢部奈津希(第10期)宗像澄生(第13期)の3名のDTWがチームを組んでDTの実践に取り組んでいる。その活動状況を個別DTも含めて報告する。

施設入所では施設側の利便性もあって、お揃いのレンタル着や集団生活の都合によるスケジュールのため、個性や自由を奪われているという現実がある。

それが決して当たり前の光景ではないということを感じ、DTの視点からアプローチすることとした。その一つが「ネイルケア」。ネイルをしている職員の爪を見て、いつも「きれいね、私もこんな風にしてみたいわ」という入居者がいる。初めは1色から始め、飾りのシールを付けたり、絵も書いたりできると伝えた。年を重ねても女性。いつまでもキレイにしたい、かわいくしたいと思う気持ちが見芽生えてきた。

【目的】

季節感を味わう。いくつになっても女性だということを忘れない。他利用者、職員、家族との会話の糸口になる。生きる喜びに繋げる。日々の施設生活の刺激を図る。

【実施方法】

DT個別活動として、1か月に1回実施。季節にちなんだ物を中心に利用者と色や絵を相談して決め、ネイルを行う。

【結果】

いくつになっても自分は女性だという心を取り戻せて、表情が明るくなり、次にお化粧もしたいという意欲にも繋がった。今後はネイル→お化粧→ショッピングにへとDTプログラムを拡げていくことを計画中。

四季がわかりづらい施設生活の中で、ネイルアートすることで季節を感じ、花や季節にちなんだ思い出話ができた。周りの利用者も「次は私ね」と、ネイルを心待ちにしている。

施設生活での退屈な日常からネイルを通して生きる活力、意欲が芽生え、楽しむという

DTの視点から“いくつになってもレディ”であるとの意識の変化が見られた。

勉強楽しいな～！！

—D T を取り入れた学習療法の取り組み—

秋本真希／第 11 期 D T W／介護福祉士
社会福祉法人豊生会 特別養護老人ホームひかりの

【はじめに、問題や目的】

サービス付き高齢者住宅に住み、週 2 回通所リハビリに通いながら自立された生活を送られていた A 様。徐々に A D L・体力・認知面に低下が見られ 2018 年 5 月 9 日に特養へ入居。入居直後は「できない」「助けて」とおっしゃり、トイレの利用も頻回な様子。「寂しい」とおっしゃることもあるが、自立度が高いため、介助の必要な人に比べて職員との関りが少なかった。トイレが頻回ということで何かに集中することで少しでも改善できるのではと考え、また職員との関りも増やすことが必要であることから、コミュニケーションや週 5 日の楽しみに繋がるよう学習療法の実践に取り組んだ。

【方法】

6 月 2 日、職員手作りの計算問題を実践。字が見えないとのことで、職員が問題を読むと解くことができています。学習療法実施前に認知機能、読み書き・計算の能力を総合的に評価し学習する範囲を決める。A 様は F A B が 8 点、M M S E が 1 2 点。A 様の学習範囲が決まり 7 月 2 日から 30 分/週 5 回の学習療法の実践を始める。学習支援者は顔なじみのユニット職員が対応。※FAB／Frontal assessment battery（前頭葉機能評価）

【結果】

学習療法を始めたころは「疲れた、体がこわい。やりたくない」と悲観的な言葉が多く聞かれ学習の間にもトイレに行くことがあり、途中で終了してしまっていた。支援者は A 様に対して場所や学習をしたい時間等を毎日確認し、A 様のやりたい気持ちを引き出すようなコミュニケーションを図っていった。1 か月がたつと「勉強いつするの？楽しみなんだ」と意欲的になり、学習中にトイレに行くことはなく 30 分集中できるようになっていった。

【考察】

A 様の生活の中で学習療法が“楽しみ”になった背景には、学習療法の 30 分という関わる時間が確保され、寂しさを多少なりとも軽減できたこと。1 対 1 で関わることで職員は A 様をより理解し、信頼関係が構築されたと考える。日常生活の中でも「できない」「助けて」とおっしゃることもまだ聞かれるが、「わからないから教えてね」「どうやるの？」と自ら行おうとする変化が見られている。学習療法を通して A 様自身、できるという思いが日常生活にも反映されてきていると考える。

【倫理的配慮に関する事項】

本発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

ユーカリ優都苑 DT 活動 14 年の歩み DT はみんなの “こころのより所”

高崎 徹／第 1 期 DTW／事務長代理

田中 赴／介護福祉士

社会福祉法人ユーカリ優都会 介護老人保健施設ユーカリ優都苑

【背景：DT と共に歩んだ 14 年】

「ほんとにこの人たちは幸せなのか？」

法人を立ち上げる前、日本のさまざまな施設を見学して回った理事長が感じた疑問。そしてオーストラリアのダイバーショナルセラピーを知ることとなり、DT を柱としたサービスの展開が始まった。オープン当初は忙しく、DT に対する疑問や、「それどころじゃない」という言葉を口にしていた職員が大半を占めていた。そこから 14 年、施設職員全員で積み上げてきた DT 活動がユーカリ優都苑入所、通所含め法人全体のサービスの核となった

【目的：すべての人に幸せと生きがいを】

ご利用いただく方はもちろん、職員にも仕事のやりがいを感じることができるのがダイバーショナルセラピーである。介護・看護・リハビリ・栄養含め、ありとあらゆる職種の専門性を活かしたアプローチをして、自ら幸せと、生きがいを感じてもらう。

【通所リハ実施方法：リハビリのセラピストに根付いた DT マインド】

誰の中にも必ずある、誰かを幸せにしたいと思う気持ちを大切に。リハビリだからといって辛い思いをすることなどない、楽しくてよい。人を幸せにするのが作業療法。その手段として運動療法、会話、電気や温熱療法、DT もその手段であり、何を使ってもよいと、当苑リハビリ職員は話す。セラピストは当日のリハビリメニューをチョイスする機会を設ける。ストレッチをするのか、筋力トレーニングをするのか、はたまた何もしないのか。こうしたチョイスを行うことで、自身のリハビリ意欲を掻き立て本人のやる気がでる。気持ちの入ったリハビリはより一層効果を高め、自宅生活の継続を可能とする。

【入所介護実施方法：施設で生活していても地域とのつながりを大切に】

年を重ねて、障害をもったとしても、新たな生きがいを見つけることができるように、地域に出ていく活動を積極的に行っている。DT 専属職員を中心に、地域に開放されている日本最大級のダイバーショナルセラピーケアガーデンを最大限活用した DT 活動を行い、入所者のライフスタイルをサポートする。

【これが優都苑の DT スタイル】

「DT ができていないからどうする？」→業務改善・3M 排除活動、「すぐ DT に使えないからから片付けよう」→5S 活動推進等、物事のとらえ方の中心に常に DT があり、DT 活動を行うためにすべてを変えていく必要性を職員自ら求めるようになる。常に「DT がしたい」という気持ちがあるからこそサービスの質が保たれる。DT は利用者のみならず職員のこころのよりどころでもある。

笑顔生まれるDT活動 ～利用者と過ごした春夏秋冬から得たもの～

小林瑞穂／第10期DTW／作業療法士

相川美保／介護職員

社会福祉法人グリーンハート 特別養護老人ホームタマビレッジ

【はじめに】

当施設では2013年よりDTを導入しており、中心的なプログラムとしては月に1回SONASセッションを実施している。また作業療法士2名がDTWを取得し、毎日15時から「3時からDT」としてDT活動も実践している。今回開始から5年が経ったところで、実践してきたDT活動を通して利用者と職員の意識の変化について考察する。

【経過】

導入当初：月に1度芹澤コンサルタント来所時にSONASを実践し、計画は担当ユニットのリーダーが考えていたが、職員の自発性が乏しく、先生の協力なしでは実践が難しい状態だった。DTW参加・施設内研修の実施後：研修を受けた職員を中心にDT委員会の再編成を行い、セッションを継続。内容も多種多様となり、1年を通して恒例となる行事が増加。また15時からOTによるDT活動も始まり、DTの実践回数が増加。

現在：月1度の芹澤氏来所時のSONASセッションは2ユニットのみだが、他の4ユニットも別の日に職員が自発的に同セッションを実施している。恒例行事（運動会・野菜レク・初詣等）は前年度の反省を生かし内容・方法がパワーアップして行えている。「3時からDT」では職員の協力体制ができ、利用者の認識も高まってきている。また夜間の睡眠状況などリハビリと介護現場で協力してデータ収集もできるようになってきた。職員一人一人の認識も向上し年中行事のアイデアも増えている。

【今までに実践したDT活動例】

春：花見・卒業入学式・園芸 夏：あじさいアート・野菜レク・スイカ割り・流しそうめん
秋：足湯・紅葉観光ツアー・運動会 冬：イルミネーション作成・初詣・バスボム作り

【ここがDT】

フロア3ユニット合同で「3時からDT」を実施することで、他ユニットとの利用者の交流を図り、利用者の社会性にも貢献する。何十年ぶりの再会を果たす場面もあった。毎日継続することで自発的に集合場所に向かう利用者もいる。「季節のSONAS」や「3時からDT」を通して利用者の笑顔や新たな一面が増えることで職員の喜びや意欲につながり、施設全体で楽しめる時間が増えてきている。

【考察】

導入当初に比べ活動時間や内容が充実し利用者・職員のDT意識も高まっている。理由として①毎月の研修により、ほぼ全職員が受講。DTの基本知識の取得ができた。②作業療法士の介入によりDT活動の場面や時間が増大した。③介護業務の中でDTのアイデアを考え実施するという機会が増えた。また、OTが実践することで専門性を生かした活動にも取り組み、利用者のADL向上にも繋がることや実践時間中に介護職が記録や他の業務を進めやすくなるなどの業務効率の改善も図れた。それにより職員がDTを楽しむ時間が増え、個性の拡大から年中行事のアイデアや各ユニットのカラーが出てくるようになったと考えられる。

しかし課題もある。今後、DTアセスメントなど基本的な部分の強化し、重度利用者への対応を検討するなど、利用者一人一人の人生の最終章のページを共に生きて行きたいと思う。

どんぐりマネーを稼ごう！ ～私と孫の挑戦～

安齊芳枝／第14期DTW／介護職員
有限会社おいらーく 住宅型有料老人ホーム CoCo 元町貳番館

【背景】

Kさん（祖母）74歳、要介護2。右マヒがあり車イスでの生活。当ホームに入居して2年。遊びに来ていた孫のS君（小学5年生）が、居室で「どんぐりマネーを稼ごう」と書かれた用紙を見つけて興味を持ち、「僕も稼ぐことができますか?!」と相談されました。どんぐりマネーとは、当ホームの施設内通貨のこと。入居されると5000どんぐりマネーが入金された通帳をお渡しします。何か活動することに所定の“どんぐり”が稼げるという仕組みです。「夏休みも近いし稼いでみる?」と答えると「8月5日の夏祭りにお手伝いをして稼ぎたい!」と返事。その日にチャレンジすることにしました。CoCo 元町貳番館では、「どんぐりマネーを稼ごう表」があり、テーブル拭き、食事後の下膳などさまざまな項目で稼ぐことができます。使いみちはバザーでの買物、おいらーく独自で販売するサマージャンボ、年末ジャンボ宝くじを購入することもできます。

【目的】

Kさんは食事の席では会話の中心です。居室ではコーヒーを淹れて読書など自分のペースで過ごされています。月に5～6回S君が訪ねて来て、楽しそうに会話をして外出する姿を見かけますが、お母さんは、S君のことを「物事に対して今一歩前に踏み出せないところがある」と心配されていました。Kさんは“どんぐりマネーを稼ごう”にはあまり積極的ではありません。S君の挑戦する姿に刺激を受けていろんなことに挑戦をしてもらうことを目的とします。

【実施方法】

夏祭り当日、S君専用どんぐりマネーを稼ごう表を渡し、食堂のテーブル拭き、昼食の盛付けに配膳。昼食後、夏祭りの準備、バザー会場の会計、接客のお手伝いでどんぐりマネーを稼いでもらいます。会場が落ち着いてきたらKさんの挑戦がスタートです。「夢叶え巡礼」という項目があり、1番から15番までの札所を回りスタンプを押します。Kさんは挑戦したことはありません。

【ここがDT】

仲が良いKさんとS君。消極的で今一歩前に踏み出せないS君を心配していたKさん。

S君のチャレンジに刺激を受けて色々なことにチャレンジを始める。お孫さんを巻き込んで、KさんにS君を励ます役割りをもってもらうことが、KさんのDTとなったと考えられます。他の入居者も刺激を受けて、新しいことにチャレンジするようになりました。

D T 委員会の活動と変化 ～各事業所が同じテーマで取り組んでみたら～

高田武代／第9期D T W／施設長(看護師)
社会福祉法人豊資会 特定施設ケアハウスどんぐり

【委員会の発足と運営】

2014年に法人内の3事業所（デイサービス、グループホーム、特定施設ケアハウス）でD T 委員会を設立。当初は実践の際に他職員から協力を得るのが難しく、課題となっていた。そのような折、オーストラリア研修の機会を得、D T が浸透している様子を観ることができた。その体験から、他職員の協力を得るには、委員がD T を語れることが必要だと考え、委員会でD T の基本や実践について学んだ。そんな中委員からのアイデアで、各施設が毎月1つずつ五感の要素の中から同じテーマでD T プログラムを工夫するという取り組みが始まった。実践報告は写真付きでファイルして各事業所に回覧し情報を共有している。

【委員会がもたらした変化】

五感の同じテーマでもそれぞれ個性があり、3事業所が互いに競い合うようになった。現在では各事業所とも、アイデアや利用者の変化、D T について他職員に小まめに伝えることで、協力が得られるようになってきている。さらに関わる利用者が意欲的になられ、その変化に職員が感動している。これらの変化は、D T 委員会でグループダイナミックスが働き、委員のモチベーションが上がったこと、学習を通してD T の理解が深まり、職員同士の情報交換が増え、職員が協力的になったのではないかと考える。家族からは親の変化に喜びの声や、利用者自身からも「早く皆の居る所に連れて行ってー」など、他者との交流を楽しもうという声が聞かれるようになってきている。

【今後の課題と目標】

D T 理解のための学習として、芹澤先生の著書と『D T 通信』の読み合わせを行うようにした。目標としては、利用者一人一人が輝くように活き活きとなる状態を目指す。D T の方法として、SONAS セッションの他にも生活支援の中で、快になる言葉かけや関わりをし、心を元気にし、できるだけ自立を支援する。そして実践報告では、何故その方を、何故その方法を選んだのかの理由と評価を伝える。それによりD T のアセスメント～評価の過程を踏むことができるのではないかと話し合った。D T は人との関係の中で相互作用をもたらし、人を輝かせることができる最良のツールである。そのツールをもっと活用していけるよう、委員会から現場の職員へ発信して行きたい。

【各事業所のここがD T！実践例】

デイサービス花梨（山中琴香）：五感を全て取り入れ、「男の料理教室」を開催して女性陣に振る舞ったことで、男性陣のコミュニケーションが増え、笑顔が増えた。

グループホームどんぐり（塚本茉莉、児嶋一）：普段、自ら話をされることのない方が“視覚”をテーマとした実践で福岡タワーからの展望を体感され、驚くほど会話が弾むようになった。

ケアハウスどんぐり（吉本光江・松田幸代）：混乱・閉じこもりの状態の方に、秋祭りの縁日を再現。「楽し～い」と童心に返ったような姿が見られ、その後の離床に繋がった。



視覚をテーマに「高所からの展望」



触覚をテーマに「箱海づくり」

ルームヴィジットがもたらしたもの ～ “その人らしさ” を探して～

松本幸子／介護職員

熊谷由美子／介護職員

社会福祉法人東京聖労院 特別養護老人ホーム つきみの園

当施設は開設して19年目を迎える。認知症利用が増える中、ご利用者のその人らしい生活を実現するために「ゆったりケア」を掲げ、ダイバーショナルセラピーを導入して8年経過している。今年度、DTの実践がご利用者に対して具体的にどういった影響を与えるのか検証を行った。※以下、ルームビジットをRVと略す。

【実施方法】一定期間、日常生活の様子を観察・記録。その後アセスメントとRVに基づいた援助を対象ご利用者に実施し、様子を記録した。記録より、反応がなかった場合は「反応なし（無反応）」反応が見られた場合は「発語あり」「笑顔あり」「身振り手振り」どれが見られたかカウントし、RV実施前・実施時に分けてグラフ化した。

【結果】

＜DT活動前＞

「反応なし」が多い。「その他」の3%は、立腹したことや悲しい表情をした等が含まれる。

＜DT実施後＞グラフを見ると、「その他」が0%になっており、全体的にバランスよく発語、笑顔、ジェスチャーが見られていることがわかる。

【活動中の具体的な行動変容】

- ・トランプゲームの神経衰弱で同じ絵柄を当てた瞬間、満面の笑顔で喜ばれる。

⇒入所時の要望は「何もしないで過ごすのが好き」趣味については「わからない」。普段は口数少なく、興味のある話題で少し会話が続く程度。しかしDT活動でレジャーを取り入れると生き生きとした表情が見られた。

- ・フラダンスの話や音楽の提供、レイを首にかけるとジェスチャーや単語での発言で応えて下さるなどの様子が見られる。しかし笑顔が分かりづらい印象。時折ひきつったように頬を上げることもあり。

⇒過去に趣味としてフラダンスを行っていた女性利用者。後日家族によると「自然な笑顔はこちらでお世話になる前からない。ただ、ニコニコは…美味しい時は…と声を掛けると口角を上げて表情を作る」と。職員の働きかけに対して笑顔を作られていたことが分かった。

- ・赤ちゃん（たあたん）の人形を抱いていただきながら、職員が傍で「七つの子」を鉄琴で弾くと顔を震わせて涙ぐむ。

⇒アルツハイマー型認知症の女性。普段独語はあるが他者へ話しかける様子や、職員の声掛けに反応が見られることはほぼ無い。DT実施時も傾眠気味で特に反応がないこともあったが、この時は感情の表出が見られた。生活歴によると、3人の子供がいたが離婚し全く連絡を取っていないという過去があり、赤ちゃんの人形と「七つの子」のメロディから自身の子供のことを思い出している可能性も考えられた。

